



佐藤クリスタル

# 国際交流員コーナー

## CIR's Corner

2024年2月 - 第21号



皆さん、こんにちは！江別市国際交流員の佐藤クリスタルです。「国際交流員コーナー」とは、私が毎月作成する国際交流や多文化についての記事です。様々な興味深い国際的なテーマを紹介します。

### 今月のテーマ:グresham市について 第3章

昨年11月30日から12月10日まで、中学生国際交流事業の引率者として、姉妹都市である米国オレゴン州グresham市に行きました。グresham市は、私の故郷であるシアトル市から車で3時間程かかりますが、今まで行ったことがありませんでした。生徒たちも私も様々な経験をしてきましたので、ご紹介します。今回は、国際交流事業の後半について書きます。第1章と第2章をまだ読んでいない方は、[11月と1月の国際交流員コーナー](#)をお読みください！

**6日目 12月5日(火)**

朝から、引率の松井先生の授業が続きました。この日は、中学生と小学生に対する授業をしました。内容は月曜日と同じで、折紙で鶴を折っていました。前日の経験を生かし、授業が上手くできました。

給食は「チキン照り焼き」でした。DCD の一番人気のメニューらしいです。甘じょっぱい一口サイズの鶏肉が玄米の上に乗っていました。



「チキン照り焼き」の給食。生のカリフラワーもあります。

ちなみに「チキン照り焼き」は、日本ではあまり食べられていないと思いますが、アメリカでは、お寿司と同じ位人気があります。アメリカではチキン照り焼きを和食だと思っている人が多いのですが、実は、アメリカ人が食べているチキン照り焼きは本格的な和食ではなく、日本と韓国からの移民が広め、アメリカ化された料理です。1976年に、カサハラ・トシさんがシアトルでアメリカ初のチキン照り焼き専門店を創設しました。そして、韓国からの移民、チョン・ジョンさんは、シアトルで経営するレストランが韓国のプルコギ風のチキン照り焼きで有名になり、他の韓国人移民に作り方を教え、80年代から韓国人経営のチキン照り焼きの店が増加しました。グresham市にも、チキン照り焼きの店がいくつかあります。

DCD の給食の話に戻りますが、毎日サラダバーで野菜と果物を自由に取れます。ブロッコリー、カリフラワー、マッシュルームなどがありましたが、アメリカのサラダは基本的に生です。江別からの生徒たちは「生野菜はまずい」と言っていました。私は子どもの時に生のブロッコリーが嫌いだったので、同感です。

給食を食べ終わった後、全校集会がありました。最初に、DCD のスクールバンドがクリスマスソングを何曲か演奏しました。日本では、吹奏楽部があり、主に放課後に活動していますが、アメリカでは、「スクールバンド」という選択授業があり、楽器を学んだり演奏したりしたい生徒はその授業を選びます。ホストチューデント6人の内、5人はスクールバンドをしていました。



スクールバンドの授業

訪問団の生徒たちも全校集会で日本を紹介する出し物を用意してきました。グレシャム市に行く前に、事前研修会で何回かソーラン節を練習し、本番で一糸懸命踊っていました。DCDの生徒たちも「どっこいしょ！どっこいしょ！」と「ソーラン！ソーラン！」を一緒に積極的に歌っていました。全校集会が終わると、DCDの生徒は江別の生徒に「すごかった！」や「かっこよかった！」などと褒めていました。ソーラン節はパワフルな民謡なので、DCDの皆さんは感動したと思います。



ソーラン節の出し物。「江別」が書かれている法被を着て踊りました。

放課後、私と松井先生はキム校長先生と TOSA (Teacher on Special Assignment) という教頭先生のような業務をしているケイリー先生と一緒にヴァリー・パブリック・ハウスというビアガーデンのハッピーアワーに行きました。ハッピーアワーというのは、レストランやバーが平日の午後4時から7時頃までの忙しくない時間帯に、お酒やおつまみの割引を行う時間帯のことです。札幌でハッピーアワーの割引を提供している店に行ったことがあります。

ヴァリー・パブリック・ハウスは、70種類以上のビール、ワイン、シードルなどがあり、ほとんどはオレゴン州産の物でした。種類があり過ぎて迷いましたが、クラフトビールが大好きな夫が飲んでみたいと言っていた「ヘイジーIPA」という種類にしました。濁っていて、黄色の見た目が特徴のビールです。「IPA」という種類はビールの中でかなり苦いのですが、このヘイジーIPAはパイナップルのようなフルティーな味わいで、飲みやすかったです。

食べ物はピザとメキシコ料理があったので、日本であまり食べられないメキシコ料理のブリートにしました。カタカナで「ブリトー」と書くことが多いのですが、「ブリート」の方が本当のスペイン語の発音に近いです。外側は小麦粉でできたトルティーヤで、中に肉、ライス、チーズ、サルサなどの具材が包まれています。手で食べますが、このブリートは具がいっぱいで重たかったです。



ヘイジーIPAとブリート

ビールを1杯飲んでから、校長先生と松井先生は生徒たちのクリスマスコンサートに行きましたが、私は時差ボケが辛かったので、ケイリー先生にホテルまで送ってもらいました。ちなみに、日本では「お酒を飲んだら乗るな」が基本ですが、アメリカでは、血中アルコール濃度 (BAC = blood alcohol content) が 0.08% 未満であれば、運転するのは違法ではありません。個人差がありますが、平均的なアメリカ人は1時間でビール2~4杯を飲むと、BAC が0.08%を越えます。私たちは約90分で1杯ずつしか飲んでいなかったのに、運転しても全く問題ありませんでした。

### 7日目 12月6日(水)

水曜日は特別なプログラムがなく、生徒たちは一日 DCD で過ごしました。松井先生の授業も終わったので、午前から一緒に生徒たちの様子を見ていました。数学と理科の授業は英語が分からなくても

何となく理解ができたようですが、他の授業は難しかったと聞きました。体育の授業が日本の体育より、体力的にハードだと言っていました。



体育の授業

今日は、私は給食を食べないで、グレシャム江別姉妹都市協会 (GESCA=Gresham Ebetsu Sister City Association)のメンバーと一緒に、またメキシコ料理を食べに行きました。会計担当のバリーさんと奥さんのトニーさんが DCD まで迎えに来てくれました。バリーさんは元警察官で、グレシャム市に長く住んでいます。トニーさんもグレシャム出身で、日系アメリカ人です。二人は高校で出会ったそうです。レストランで会長のトミコさんと合流しました。トミコさんも日系アメリカ人で、とても陽気なおばあちゃんです。アメリカで生まれたので、日本語は分かりませんが、グレシャム市と江別市の国際交流に積極的に関わっています。



GESCA とのランチ

午後は DCD に戻り、放課後はホストファミリーとの potluck (持ち寄り) パーティーをしました。ホストファミリーは美味しい食べ物をたくさん持参し、キム校長先生もケーキを用意してくれました。みんなでホームステイの楽しい思い出について語り合いました。アイスホッケーの試合観戦やマルトノマ滝に行ったり、家族とゲームや料理をしたりして、ホストファミリーが所有する飛行機に乗せてもらった生徒もいました。そして、感動して涙を流した人も何人か

いました。滞在期間は短かったですが、ホストファミリーも生徒たちもとても良い経験ができました。ホストファミリーと過ごせる時間は残り2泊となっていたので、最後まで楽しめることを祈っていました。



Potluck party のケーキ

## 8日目 12月7日(木)

木曜日は、DCD で集合し、一日グレシャム市内の見学旅行に行きました。

最初は、グレシャム市役所に行き、市長の政策アドバイザーのラリーさんに案内してもらいました。各課はそれぞれオフィスがあったため、日本の市役所と比べて、ものすごく静かでした。声を出したら怒られるような雰囲気でした。

消防署、警察署、教育委員会は市役所の隣にあるので、次は消防署に行きました。消防士が様々な救命道具を紹介し、fire engine と fire truck の違いを説明しました。両方ただの「消防車」という同義語だと思っていたのですが、本当は、fire engine=消防ポンプ車、fire truck=はしご車でした。私にとっても英語の勉強になりました。



Fire truck に積んである救命道具

消防署の見学の後、教育委員会の教育長に挨拶をしに行きました。教育長はジェームズ・ヒューさんと言います。ハワイ出身で、お父さんが中国系とハワイ系、お母さんが日本人です。カッコいいスクー

ルバッグに教育委員会からのプレゼントがいっぱい入っていて、とても温かく歓迎してくれました。



ジェームズ・ヒュー教育長からのプレゼントを見て喜んでいる生徒たち

次は、市役所から離れ、グresham歴史博物館を見学しに行きました。グresham市議会議長のスー・ピアザさんが案内してくれました。普段は歴史的な物が置いてあるのですが、クリスマスが近かったので、クリスマスの展示会を行っていました。サンタクロースやクリスマスツリーが多く飾られており、ジンジャーブレッドハウスのコンテストも開催していました。ジンジャーブレッドというのは、生姜やシナモンを使ったクッキーのことで、ジンジャーブレッドハウスというのはそのクッキーでできているいわゆる「お菓子の家」です。「プロ」と「素人」の部門があり、私たちは好きな家に投票しました。



ジンジャーブレッドハウスのプロ部門。優勝した作品は左。

ジンジャーブレッドハウスを見てお腹が空いたので、昼食に博物館の隣のハンバーガー屋さんに行きました。The Local Cow(現地の牛)という店で、グラスフェッドビーフ(牧草飼育の牛肉)やオレゴン州産の有機栽培の野菜を使用したグルメハンバーガーを提供しています。私はバーベキューベーコンチーズバーガーにしました。分厚くてジューシーでした。ポテトの量も半端なかったです。ベーコンがカリカリで美味しかったです。



BBQ ベーコンチーズバーガー。ポテトを完食できませんでした。

ハンバーガーを食べ終わってから市役所に戻り、市長表敬訪問をしました。トラヴィス・ストヴァール市長が生徒たちと懇談し、グresham市のおすすめをいくつか教えてくれました。「The Local Cowは最高に美味しいハンバーガー」とおすすめされ、先ほど食べに行ったことを伝えたら、「いいなあ！僕も行きたかったなあ…」とうらやましく言っていました。



トラヴィス・ストヴァール市長(真中)

最後に、警察署を見学しに行きました。ジェフ・ミラー警部補が丁寧に説明しながら案内してくれました。警察犬を撫でさせてくれて、捜査に使うドローンの操作室やパトカーの中まで見せてくれました。ミラー警部補の話によると、2023年に拳銃事件が140件以上ありましたが、安全対策に取り組んでいるので、2022年より減っているとのことでした。グresham市では、拳銃事件よりも、盗難が最も多い犯罪らしいです。



警察官に手錠されて喜んでいる生徒たち

グresham市内の見学旅行が終わり、生徒たちはホストファミリーの家に帰り、引率者はホテルに戻りました。商工会議所会頭のブライアン・ヨークさんがホテルに私と松井先生を迎えに来てくれて、彼がボランティアとして開催しているクリスマスチャリティーディナーの会場を見せてくれました。まだ準備中でしたが、ブライアンさんが担当しているテーブルはスヌーピーが飾られていて、かわいかったです。このイベントでは、ホームレスや貧しい人々を助けるために、食品や日用品を集めているそうです。



グresham商工会議所会頭のブライアン・ヨークさん

その夜、私はグresham高校の日本語の先生と一緒にディナーを食べに行きました。タラ先生というアメリカ人の女性です。90年代にALTとして日本に英語を教えに来て、3年間住んでいました。アメリカに帰ってから、日本語を教える資格を取得し、何年間もグresham高校で日本語を教えています。1月に江別市の高校生2人がグresham高校に派遣され、1か月のホームステイをしています。2月中旬に江別に帰ってきます。

ディナーはターキーとクランベリーソースのサンドイッチでした。感謝祭の余り物でよく作っていたサンドイッチです。他に様々なメニューがありましたが、グreshamにいる間、できるだけ日本で食べられない物を食べようとしていたのと、昼食のハンバーガーが大きくてそんなにお腹が空いていなかったため、一番軽そうな物にしました。

しかし、出てきたものは、かなりボリュームがありました。やっぱりアメリカは何でもデカいですね！



## 9日目 12月8日(金)

グresham市の最後の一日になりました。DCDで集合し、ホストファミリーと友達と別れました。スクールバスに乗り、一度生徒たちはホテルにチェックインし、その後ポートランド市に向かいました。

最初は、オレゴン州日系アメリカ人博物館(JAMO=Japanese American Museum of Oregon)に行きました。先週ポートランド市に下見に行った時、ギフトショップしか見ていませんでしたが、今回は生徒たちと一緒に中を見学しました。案内してくれたのは、リエさんとトヨコさんでした。リエさんは日本から来た日本人ですが、トヨコさんは三世の日系アメリカ人です。二人とも50代~60代の女性です。リエさんはもちろん日本語で案内してくれましたが、トヨコさんもとても流暢な日本語で話していました。「日本から来たおばあちゃんとおじいちゃんと言語で話していたので、日本語を覚えました。三世日系アメリカ人として珍しいです」とトヨコさんが説明しました。

JAMOでは、約150年前からオレゴン州に移民した日本人について学びました。ポートランド市に「日本町」ができ、日系アメリカ人のコミュニティが発展していました。グresham市にも日系アメリカ人の農家がカリフラワーやいちごなどの農作物を作っていました。しかし、真珠湾攻撃の後、西海岸に住んでいる日本人と日系アメリカ人は強制収容されました。強制収容された人の多くはアメリカで生まれ、アメリカの国籍を持っていました。日本にルーツがあるという理由だけで日系アメリカ人を敵のように扱うのは人種差別でした。アメリカの悲しい歴史ですが、二度と起きないように、学ぶ必要があると思います。生徒たちは日本の中学校でこの歴史は勉強したことがないと言っていました。見学が終わり、感想を書く紙がありましたが、生徒たちは「勉強になりました」と書いていました。



強制収容所の様子。薄いマットレスと薪ストーブしかなかったの、家具は全てある物で自分で作ったそうです。仏壇も作りました。



ランチタイムは友達のフィリーシャが教えてくれたキッチンカーのポッドに行きました。生徒たちはそれぞれ好きな物を選び、予想どおり喜んでいました。無難な「チャーハン」にした子もいましたし、新しい物に挑戦して韓国とメキシコが混ざったような多国籍料理にした子もいました。私は子どもの

時によく食べていた懐かしい「マカロニ・アンド・チーズ」にしましたが、量が多過ぎて、途中で飽きてしまい、余りは日本円に両替できない小銭と一緒にホームレスの男性に渡しました。

午後はお土産を買いに行きました。最初は、ナイキストアに行きました。ナイキはオレゴン州の会社で、オレゴンでしか買えないナイキグッズもありました。私は買い物で荷物が増えたため、生徒とお揃いの桃色のボストンバッグを買いました。そして、ナイキストアの近くにあるパイオニア・スクエアという広場のクリスマスツリーの前で記念写真を撮りました。

次に「メイド・イン・オレゴン」というお土産屋さんに行きました。そこで、娘にビッグフットのぬいぐるみを買いました。ビッグフットというのは、オレゴン州で初めて目撃された伝説のUMAです。ビッグフットのお土産がたくさんあったので、オレゴン州のゆるキャラのような存在だと思います。

何軒かのお土産屋さんに行き、生徒たちは疲れたのでホテルに戻り、夜ご飯はホテルの隣の「チキン照り焼き」の店に行きました。「日本のと違うけど、美味しい」と全員言っ



ていました。グresham市の思い出話を語り合いながら食べました。そして、次の日の朝は3時半に出発する予定なので、寝た方が良いか起きていた方が良いか生徒たちの中で議論をしていました。

## 10日目 12月9日(土)

私は少し寝ることにして、朝2時に起きました。来た時はスーツケースが2つでしたが、帰る時はスーツケース3つとナイキのボストンバッグまで増えました。松井先生はスーツケースが一つしかなかったため、私のを一つ持って行ってもらいました。女子生徒5人はホテルのロビーに集合し、男子の一人は寝坊してしまったので、松井先生が起こしに行きました。寝坊してしまっても、予定通り午前3時半頃に出発できました。

ホテルから空港まで行き、朝早い時間でしたが、空港は混んでいました。それでも、割とスムーズにチェックインできました。しかし、保安検査を通過する時に一つだけハプニングがありました。鶴アイランドのジムさんからもらったジャムを手荷物に入れていた生徒がいました。TSA(アメリカの運輸保安庁)の職員がジャムの瓶を鞆から出し、「100ml以上の液体は手荷物に入れることができないので、またチェックインに戻り、鞆を預けるか、この場でジャムを処分するか」という選択肢を与えました。残念なことに、荷物を預ける暇がありませんでしたので、グresham市にも、ジャムにも、別れを告げました。

無事にロサンゼルス空港に到着し、昼過ぎに日本行きの飛行機に乗りました。今回はかなり疲れたので、飛行機の中でぐっすり寝られました。

## 11日目 12月10日(日)

日本に到着したのは、次の日の夕方でした。バック・トゥ・ザ・フューチャーという感じでした。羽田空港で久々におにぎりを食べました。

新千歳空港に着いたのは、夜の9:15頃でした。夫と娘が私を待っていてくれました。娘は寝る時間が遅くなったので、ぐずぐずしていましたが、私がポートランドで買ったビッグフットと大きなウーパールーパーのぬいぐるみをプレゼントすると、大人しくなりました。家に帰って、またぐっすり寝ました。

9泊11日の長い旅でしたが、生徒たちも、私も、色々な意味で勉強になりました。故郷と違う環境を体験し、年月が経ってアメリカで様々なことが変化した事実も実感しました。来年度の中学生国際交流事業を楽しみにしています。★

お問合せ先  
教育部 生涯学習課 国際交流員  
〒067-0074 北海道江別市高砂町 24-6  
Tel:011-381-1049 Fax:011-382-3434